

酒田飽海の
つや姫・雪若丸情報

令和6年8月2日発行

庄内総合支庁

酒田農業技術普及課

TEL(22)-6521 Fax(22)-6522

「つや姫」の出穂早い！圃場を見回り、遅れずに花水を！

生育診断圃の出穂予想は、「雪若丸」が8月3日（平年：8月3日）、「つや姫」は8月7日（平年：8月9日）で、「つや姫」で平年より早まる予想です。管内では、すでに出穂した圃場も多く見られています。圃場を見回り、出穂状況を確認しましょう。

1 今後の気象予報

1か月予報（気象庁8月1日発表）によると、向こう1か月の気温は高く、特に期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。東北日本海側では平年に比べ晴れの日が多く、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間は多いと予報されています。

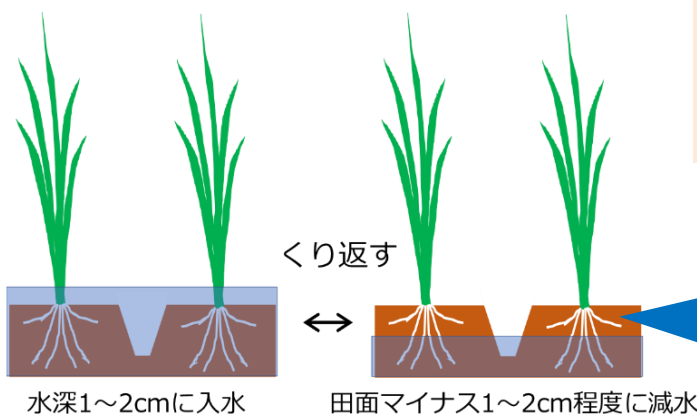
2 これからの水管理 ～きめ細やかな水管理で高温対策！～

- 出穂・開花期は稲体が最も水を必要とする時期です。出穂を確認したら穂揃期までは2～5cmの水深で湛水状態を維持しましょう。

※7月25日に発生した豪雨により土地改良区の取水施設が被災し、現在、給水できない圃場もあります。暗渠を閉じ、水戻板を上げ、雨水を貯水する等の対応を取り、できる限り用水確保に努めましょう。

- 穂揃期以降は「間断灌水」や「飽水管理」を徹底し、酸化的な土壌条件で根の活力を維持しつつ、登熟を促進させましょう。水を張りっぱなしにすると根の機能が低下して、登熟に悪影響を及ぼします。飽水管理は、湛水管理に比べて地温を低下させるだけでなく、節水の効果も期待できます。
- 出穂後に強風やフェーンに遭遇すると、白穂や枝梗枯等が発生する可能性があります。強風が予想される場合は湛水し稲体を保護しましょう。
- 出穂後 30 日間は完全落水を行わないようにしましょう。早期落水を避けることで、胴割の発生による品質低下を防ぎます。

◆ 飽水管理のイメージ



飽水管理のメリット

湛水管理と比べて

- ◎夜間の地温が0.5℃程度低くなる。
- ◎土壌を酸化的に保つことができ、根の活力が維持される。

地表（田面）には水がないが、くぼみには溜まっていて、土壌が常に湿潤状態に保たれている